

令和8年4月28日(火) 令和8年度 第2号



さいたま市立泰平中学校

学校だより

さいたま市北区本郷1991 電話：048(651)4134

【教育目標】

豊かな心を持ち実践力のある生徒の育成

【目指す学校像】

季節の花と明るい挨拶にあふれ、
生徒一人一人に夢と生きる力を培う学校

— 大好きTAIHEI —

「石碑の言葉」

校長 宮内和典

新緑が美しい爽やかな季節となりました。早いもので始業式・入学式から間もなく1カ月が過ぎようとしています。この時期は、ゴールデンウィークとも重なり、新年度の緊張感から解放されますが、生活リズムを大切に過ごしてもらいたいと思っています。

さて、本校の体育館前には石碑が建立されており、

「たった一人しかない自分を たった一度しかない一生を

ほんとうに生かさなかつたら 人間生まれてきたかいがないじゃないか」

という言葉が刻まれています。この言葉は、山本有三さんの『路傍の石』の中に出てくる、吾一少年の恩師、次野先生の言葉です。吾一少年は失望から、鉄橋の枕木にぶら下がり、汽車を止めてしまいました。そのような行動をとった、次野先生は「吾一」という名は、「われ一人なり。われはこの世に一人しかない意味だ」と吾一を諭し、その後上りの言葉が出てきます。

当たり前のことですが、世界中で、私という人間はたった一人しかいません。誰もわたしの代わりにはなりません。そして、だれもが人生を二回生きることではできません。どんな人にも平等に人生は一度きりです。「今」という瞬間は二度と戻ることはありません。本当に大事だったものは、後から思い出した時に強くなります。それが、後悔です。後悔を少しでも小さくして人生をおくるには、「今その時」「今この一瞬」を全力で一所懸命生きるしかありません。

たった一度きりの中学生時代。たった一度きりの中学〇年生の一年間。それらの時間は二度とは戻ってきません。そう考えると、「今」という瞬間がとても大切だと思いませんか。

山本有三さんの『路傍の石』の中に出てくる次野先生言葉のように、泰平中学校の生徒の皆さんには、自分のことを、そして与えられた一度きりの人生を、たった一つの命を大切に、たった一度きりの中学生時代。たった一度きりの中学〇年生の一年間過ごしてほしいと思います。

今回は、泰平中学校の石碑に刻まれている言葉を紹介しましたが、言葉によって心を痛める人や言葉によって人は傷つくことがあります。しかし、言葉によって慰められ、励まされることも事実です。場合によっては、その言葉によって救われたり、影響を受けたりなど、人生を大きく変える場合もあります。泰平中学校の生徒の皆さんも、この連休中に、本を読んだり、映画を観たり、音楽を聴いたり、先人の言葉を調べたりするなどして、心の糧となる言葉と出会ってもらえればと思います。なお、山本有三さんは、大正から昭和にかけて活躍した日本の小説家、劇作家、そして政治家でもあり、『路傍の石』の内容の一部が、特別の教科 道徳 の教科書に掲載されていますので、泰平中学校の生徒の皆さんも教科書で調べてみるのもよいと思います。

保護者の方へ

この時期は連休があり、不規則な生活になりがちです。肉体的にも精神的にも疲れがたまり始めている頃ですので、これまで以上に御家庭と学校との連携を密にしながら教育活動を進めて参りたいと存じます。また、御家庭での団樂のひとつときは、子どもたちにとってもかけがえのない時間でもあります。保護者の皆様には、お子様とともに楽しい時間を過ごしていただき、子どもたちが連休明けからも、自信と意欲をもって毎日の生活に臨めるよう気持ちのリフレッシュをお願いいたします。

もし、お子様が登校を渋るようことがありましたら、お子様の話を共感しつつよく聞いていただき、一緒に登校に向けて準備するなど安心感を与える御支援をお願いします。また、学校へも御相談ください。

泰平中にお子様がお住みの御家庭向けの学校だよりは、次号よりスクリーンにて配信させていただきます。登録がお済でない御家庭は、登録をお願いいたします。なお、登録の方法等が御不明な場合は、お手数ですが学校まで御連絡ください。